宮古郷土史研究会
会報
No.265
編集・発行 宮古郷土史研究会

＜十一月定例会レジメ＞

みんなで話そう♪ これからの郷土史研究会 ―50周年にむけて―

事務局

宮古郷土史研究会の設立

一九七五年四月　宮古郷土史研究会は、県立図書館宮古分館の事業として会員三一名でスタートした。運営委員長を中心に毎月例会を開き研究報告会を実施した。翌七六年四月会長他役員を選出、規約も定めた。以来半世紀となる。設立当初からの会員は三名。二〇二四年十一月一日現在の会員数は、四六名を数える。

「会報」の発行

研究会の情報誌「会報」創刊号（一九七七・一）から二七号までは手書き、二八号以降は活字印刷発行。年四～六回発行（四頁）。

一九九九年五月の一一二号から年六回の定期発行（六～八頁）。印刷所の閉鎖で一九八号あたりから自前でパソコン編集、印刷だけを外注するようになった。　二〇一二年の一九〇号以来原則八頁の発行である。一〇〇号（一九九七・一）、二〇〇号（二〇一四・一）、二五〇号（二〇二一・五）。現在二六五号（二〇二四・十一）で継続的に発行している。

会誌「宮古研究」の発行

創刊号（一九七八・七）発行以来、第十四号（二〇二一・六）まで発行。

他に、『宮古島の史跡をたずねて』（一九七七・十、再版一九七八・十、新版一九九九・十一）。『人頭税史跡めぐり』（一九八七・十一）。『宮古の戦争と平和を歩く』（一九九五・十一月、二〇〇二・七月二刷）を発行。

記念の集い

「会報」一〇〇号：宮古郷土史研究会の二〇年を振り返る集い

「会報」一五〇号：宮古郷土史研究会設立三〇周年に思う

「会報」二一二号：宮古郷土史研究会設立四〇周年・『宮古研究』第十三号発行記念祝賀会宮古郷土史研究会四〇年のあゆみ（抄）

研究発表会

第一回（一九七八・四）、第二回（一九七九・三）、第三回（一九八〇・四）、第四回（一九八二・五）

シンポジウム等

一九八三・十二　波平仁也惠教没後一二〇年記念「近世宮古の動向をさぐる～割重穀事件・多良間騒動・落書事件～」

一九八四・十二　稲村賢敷と宮古研究

一九九一・八　慶世村恒任生誕百年記念　〝慶世村恒任を語る集い〟

一九九三・十　人頭税廃止請願百周年の集い―「人頭税とその廃止運動」をめぐって

一九九五・二　太平洋戦争・沖縄戦終結から五〇年「宮古が戦争とどうかかわってきたのか」を考える

一九九九・五　柳田國男と宮古

二〇〇〇・十　アカハチ事件から五〇〇年～琉球王府と宮古・八重山を考える～

二〇〇五・十二　宮古郷土史研究会三〇周年記念シンポジウム「宮古の『旧記』編さんから三〇〇年」

二〇一五・十　宮古郷土史研究会設立四〇周年フォーラム「戦後七〇年と宮古～次世代の宮古を考える～」

史跡めぐり

一九七六年以降、県立図書館宮古分館の「郷土史講座」などで実施していた。

一九八七年以降、市民総合文化祭の郷土史部門で毎年実施している。

一九七八～八〇年、研究会主催で市民向けに実施した。会員向けには随時実施した。

宮古郷土史研究会の五〇年の歴史を、改めてふり返ってみると、さまざまな活動をしていることが見て取ることが出来ます。

そして二〇二五年には、大きな節目である五〇周年を迎えます。この特別な周年の年を、良きものにするためには、会員の皆さんのさまざまな声が必要です。

会員あっての研究会ですから、より良い周年とするために、いろいろなことをしっかり語りあいましょう。次の五〇年に向けて…とは少し大げさですが、これからの郷土史研の新しい歴史を刻んで行くためにも、会員同士のコミュニケーションを含め、今回のディスカッションの場を設けました。

勿論、ディスカッションと掲げていますので、来年の五〇周年だけにとどまらず、研究会にまつわるあらゆる事象～運営、方針、定例会、会報などなど、聖域なしのフリートークが出来る場として、今月は定例会を設けました。

さあ、みんなでいっぱいお話をしましょう♪